

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年6月30日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ 県GAPに向け内部点検実施

J Aぎふえだまめ部会は、6月7日、県GAP確認制度への7月申請を目指し、J Aぎふ曾我屋選果場において、団体事務局の管理体制や選果場の施設管理等について、J A職員、農業普及課（岐阜県GAP指導員）立会いの下、内部点検を行った。その結果、概ね基準を達成していたものの、一部改善が必要な事項も確認されたため、早急に改善対策に取り組んでいくことにした。

同部会は、申請に向け、4月に事務局研修会や自己点検の実施、5月に申請希望者を対象とした説明会を開催するなど、急ピッチで準備を進めてきた。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携し、県GAP確認制度の円滑な推進を図るとともに、団体申請における課題を整理することとしている。

（園芸産地支援第一係・川部 知）



【施設点検の様子】

## 新たなブランドづくり

### ■にんじん にんじん部会役員会開催

各務原市園芸振興会にんじん部会は、6月12日に、J Aぎふ鶴沼支店において、第2回の役員会を開催した。

部長はじめ各地区役員5名、J A及び当所担当者等が出席し、農業普及課から、冬にんじん栽培講習会の内容案、各種試験状況について説明し、7月に予定する視察研修、にんじんキャラクター「かかみちゃん」（着ぐるみ）の活用等と併せて、検討・確認を行った。

にんじん選果場稼働2年目を迎え、現在出荷中の春夏にんじりは、市場出回り量が潤沢で、良好な品質は維持しつつも厳しい販売情勢にあるが、農業普及課では、今後の冬にんじん栽培に向けても高品質・安定生産・安定出荷に向けた支援を継続する。



【役員会の様子】

（地域支援第二係・近藤 徹）

### ■薬用作物 栽培研修会開催

6月26日、27日に、岐阜市薬用作物栽培協議会が栽培研修会を開催し、26日には、東京生薬協会指導員を講師に、各種薬用作物の今後の栽培管理について研鑽した。

27日には、ほ場において生育状況を確認し、発芽率が悪かったキキョウとミシマサイコの対策について検討するとともに、岐阜市長によるほ場視察もあり、協議会の活動について理解を深めていただいた。

農業普及課では、今後も栽培方法の確立に向けた支援を継続する。



【研修会の様子】

（地域支援第一係・鈴木郁子）

## 多様な担い手づくり

### ■アスパラガス アスパラ塾開催（第1回）

J Aぎふは、6月7日に、同正木支店において、塾生7名を対象に、アスパラ塾を開催した。

農業普及課では、講師として、アスパラガス栽培の基本について座学を行った後、羽島市アスパラ部会長の圃場を視察し、立茎方法のポイントについて説明した。

年6回開催するアスパラ塾の次回開催は7月上旬で、は種から定植までの栽培ポイントを研修する予定で、農業普及課では、今後もJ Aぎふと連携し、アスパラガス生産者の確保・育成に向けて支援していく。



【アスパラ塾の様子】

（園芸産地支援第一係・山田雅幸）

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 「にじのきらめき」JA・米卸業者・カレー店連携開始

JAぎふは、6月13日、水稲の多収性新品種「にじのきらめき」の導入に向けた、米卸業者とカレー店との連携プロジェクトに取り組むことを発表した。

にじのきらめき（北陸263号）は、コシヒカリと同等の食味と15%増の収量が見込まれ、業務用米の複数年契約を推進するJAぎふは、あさひの夢の後継品種として期待している。

農業普及課では、今後、生育調査による地域適応性の確認、収量・食味調査による適性判断について支援する予定である。



【連携取り組みの様子】

(地域支援第三係・飯沼清敏)

### ■守口だいこん 種切り作業実施

JAぎふ大根部会守口生産委員会は、6月1日、岐阜市西郷地内の採種ほ場において、種子の付いた茎を刈り取る「種切り」作業を行った。これは、飛騨美濃伝統野菜「守口だいこん」の種子を確保する取り組みで、生産者及びJAぎふ、岐阜市、農業普及課の関係機関15名が参加した。

今年は、母本の定植を部分的に1本植えとする試験も行っており、一本植え区は定植以降一株も枯れなかったこともあり、昨年より多い種子の確保が期待できる状況となった。

今後は、乾燥後に種たたき作業を行い、農業普及課も関係機関と連携し、種子の確保と保存について継続支援していく。



【種切り作業の様子】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

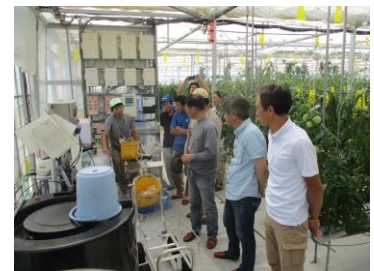
### ■いちご 糸貫苺技術部会勉強会・研修会開催

6月22日、糸貫苺技術部会が勉強会・研修会を開催した。

海津市の岐阜県就農支援センターにおいて、トマト独立ポット耕の栽培状況を視察し、センター職員から、施設概要、就農支援体制等について説明を受けた。また、トマトの栽培技術の中から、イチゴにも導入可能な技術の提案があり、生産者からも様々な質問が出て活発な討論となった。

視察終了後、JAぎふ糸貫支店において研修会を行い、農業普及課からは、今後の育苗管理、現地試験の途中経過等に関して情報提供を行った。

今後、農業普及課では、技術部会と連携して、新しい栽培技術等の導入に向けた調査、検討を行っていく予定である。



【トマト栽培の視察】

(園芸産地支援第一係・菊井裕人)

## 住みよい農村づくり

### ■羽島市内小学5年生 田植え体験学習開催

6月5日、11日、12日に、総合学習の一環として、羽島市内3小学校の5年生を対象に、田植え体験学習を開催した。

ほ場提供・田植え指導する農家をはじめ、JA及び羽島市も連携して学習を支援しており、農業普及課から、今回田植えをする水稲「ハツシモ」の品種特性や名前の由来、手植え方法を説明した後、児童が実際にほ場に入り、田植えを体験した。

最初は、土の感触を気持ち悪がっていた児童たちも徐々に作業に慣れ、泥まみれになりながらも、予定面積を最後まで植え切り、田植え作業の大変さも実感し、ご飯を大切にする意識の向上等も伺われた。

今後、秋に収穫体験も計画されており、農業普及課では関係機関と連携し、支援を継続する。



【田植え体験学習の様子】

(地域支援第二係・今井啓司)